



仲道郁代のコンサートの作り方

2009年11月11日(水) 18:30~20:00 神戸女学院大学 オルチン館 合奏室

3大学連携の第1回トライアル講座として11月11日(水)ピアニストの仲道郁代さんを神戸女学院大学にお招きして、講演「仲道郁代のコンサートの作り方」を行いました。

インターネット・ビデオ会議システムで結ばれた3大学の学生に「コンサートって何のためにするものだと思いますか?」と質問を投げ掛けるところからスタートして、ご自身の活動の基本精神と具体的な考え方について実例を挙げながら話して下さいました。

ベートーヴェンの〈悲愴〉ソナタの解釈から実演の可能性を探求し、また、月の裏側に住む馬たちの気持ちに想いを馳せるなど、イメージの広がりを実感するワークショップなどを行いました。



笑顔で話す仲道郁代さん



楽曲分析の重要性を実演を交えながらわかりやすくレクチャー

学生のことば

- ◇「その場で演奏するだけがコンサートじゃない、その過程も含めて〈コンサートをする〉ということだ」という話が一番印象に残っています。(ピアノ・2年生)
- ◇「演奏家は演奏だけをしていれば良い」という考えはナンセンスであると強く感じました。(ピアノ・4年生)
- ◇「常に考えること」と仲道さんがおっしゃっていましたが、考える程にたくさんのアイデアが生まれ、演奏も味付けされていくことがとても面白く感じました。(ピアノ・院1年生)
- ◇「精神性」についてのお話の中で、その演奏会を人に感動してもらえるものにするには自分がその音楽の中に入りこまなければならないというお話が印象に残りました。(ピアノ・2年生)
- ◇人前で話したり表現したりする限り、エンターテイナーでなければならないし、アウトプットの何十、何百倍ものインプットがないとだめだと実感しました。(声楽・院1年生)
- ◇他の大学の人たちが大きく画面に映っているのを見ることができたり、音楽に対する考え方が聞けたりして、本当に同じ場で講義を受けているような感じがしました。(ピアノ・2年生)
- ◇女学院からの配信でしたが、意見交換などを通して他大学の人たちもリアルタイムに学んでいる雰囲気に好感が持てました。(ピアノ・1年生)
- ◇照明やピアノの音にとってもこだわるということを知って、私は照明のことなど何も知らないもので、勉強した方がいいのかなと思いました。(声楽・2年生)
- ◇「トーク内容はあまり考えすぎずに舞台に出る!話したいことは練習の段階で頭の中にあるわけだから」というお話に納得しました。今後はトークにもトライしていきたいです。(ピアノ・院2年生)
- ◇考える訓練、言葉を使う訓練の重要性。意見を求められた時、「わかりません」「恥ずかしい」ではなく、どんどん意見を発言したり質問したりする能力を高めていきたいと思いました。(ピアノ・院1年生)



学生たちからの質疑に応える仲道さん